

第4学年C組 社会科学学習指導案

授業者 石井 史知
研究協力者 外池 智, 加納 隆徳

1 単元名 調べよう、考えよう、ごみのゆくえ

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

「調べよう、考えよう、わたしたちのくらしと安全」の単元では、地域社会における災害及び事故の防止について、消防署や警察署などの関係機関に従事する人々が、地域の人々と協力して災害や事故から人々の安全を守っていることや、関係の諸機関は相互に連携して緊急に対処する体制を取っていることを学習した。その際、「自助・共助・公助」の視点を用い、自分や家族の取組、地域の人々や共同体、そして消防署や警察署などの公的機関の働きを考えた。具体的には、「共助」の視点から「消防団」の働きを取り上げ、その役割を考えた。今後も複数の視点から社会的事象の意味について考察していくことが大事である。

(2) 単元について

我々の日常生活において、大量で多様なごみが排出されている。それらを処理するために、現在までに衛生的に処理する仕組みが作られ、計画的に改善されてきた。分別収集による資源化物の再利用が進められ、また秋田市では「秋田市一般廃棄物処理基本計画」の策定、処理にかかる費用の一部を住民が負担することなどの取り組みを通して、秋田市のごみの一人あたりの排出量は減少してきている。今後、さらなる削減と、循環型社会の構築を目指し新たな削減目標のもと、取り組んでいるところである。ごみ処理は自治体だけで行われるわけではなく、そこに暮らす自分、地域、事業者の協力のもとに行われている。生活していく以上、ごみは必ず生じる。また、日本と他国を比較すると、一人あたりの排出量がOECD加盟国の主な国々と比較して非常に多く、その意味でもごみを削減していくことは必要であり、自分たちで解決しなければならない課題である。

地域の人や処理事業に従事する人々、自治体が、どのような取組をして、現在どんな工夫や努力をしているのかを調べ、自分や家族、地域、業者、自治体が協力することによってなされていることを理解し、複数の視点から社会的事象の意味を考えることができる単元である。そして、子ども一人一人がごみ処理をより身近なこととしてとらえることを期待する。

また、現在の生活環境のよさについて考え、この環境を維持し、さらには向上させたいという意識をもたせたい。これからの社会生活を営む子どもたちにとって、一人一人のルールやマナーが問われる内容であり、地域社会の一員としての意識をもち、よりよい社会の形成への参画について考えていくことが期待できる単元である。

(3) 指導について

本単元における子どもが獲得する新たな価値を、「ごみを処理するにあたり、それぞれの立場の人々が協力・連携して取り組んでいる目的を実感をもって気付く」こととする。本単元では「処理の仕組みや再利用、人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子をとらえ、それらの事業や地域、自分たちが果たす役割を考える」という「見方・考え方」のもとに、調べたことや資料から読み取ったことの意味について「対話」し、考える活動を設定する。話し合いは、自分の考えの根拠を明らかにして話し、グループで共有する過程を通して主観的な見方から客観的な見方への変容を促していく。

単元の前半では、各家庭からどんなごみがでるか、どのような過程を経て処理されているかを見学や資料を通して調べ、調べたことをカードにまとめたり視覚的にわかりやすい板書を工夫したりしてごみの処理が計画的に進められていることに気付くようにする。更に、ごみ処理の課題の一つであるごみの減量化に向けた取り組みについて、誰がどんなことをしているのかを考え、自分たちでできることに考えを広げていく。私たちの住みよいくらしをつくるための働きを複数の立場から見つめ直し、協力して取り組んでいることをとらえるようにしたい。

単元の中盤では、ごみ処理に関して再利用の観点から事例を取り上げ、「自分や家族」「お店」「リサイクルプラザ」「加工業者」等、様々な立場の人たちが関係していることを理解させる。その際、「対話」を通して事例から関係性を導き出していく。事例をペットボトルに絞ることにより、より具体的な問題意識を共有した話し合いができるようにする。その学習をもとに缶やビン、古紙など他の資源化物も同様の協力の下でリサイクルされていることに気付かせたい。そして、単元の終末での、ごみを減らすために自分にできることの考察につなげていきたい。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) ごみの処理にかかわる対策や事業に関心をもち、意欲的に調べている。 〈7-1・2・9〉
- (2) ごみの処理にかかわる対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現することができる。 〈1-5〉
- (3) 施設を見学・調査したり、資料を活用したりして、ごみの処理にかかわる対策や事業について必要なことを集め、読み取ることができる。 〈1-6〉
- (4) ごみの処理にかかわる対策や事業は計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解することができる。 〈1-34〉

4 単元の構想 (総時数13時間)

調べよう、考えよう、わたしたちのくらしと安全
くらしをささえる水 (4年)

| 時間 | 学習活動 | 教師の主な支援 | 評価 (本校の資質・能力との関連) |
|-----------------------|---|---|---|
| 1・2・3 | (1) 自分らから、身のまわりの生活の様子を、観察し、写真や図表などを用いて、整理し、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察の目的や方法、観察の場所や時間、観察の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 観察の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察の目的や方法、観察の場所や時間、観察の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 観察の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 |
| ごみはどのように処理されているのだろうか。 | | | |
| 4・5 | (2) 地域の清掃活動に参加し、ごみの分別や回収の様子を観察し、写真や図表などを用いて、整理し、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 |
| 6・7 | (3) 地域の清掃活動に参加し、ごみの分別や回収の様子を観察し、写真や図表などを用いて、整理し、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 |
| 8・9・10本時 | (4) 地域の清掃活動に参加し、ごみの分別や回収の様子を観察し、写真や図表などを用いて、整理し、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 |
| 11 | (5) 地域の清掃活動に参加し、ごみの分別や回収の様子を観察し、写真や図表などを用いて、整理し、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 |
| 12 | (6) 地域の清掃活動に参加し、ごみの分別や回収の様子を観察し、写真や図表などを用いて、整理し、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の目的や方法、清掃活動の場所や時間、清掃活動の道具などについて、事前に話し合い、準備をさせる。 ・ 清掃活動の結果を、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 |
| 13 | (7) 学習したことをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを、写真や図表などを用いて、整理し、発表できるように指導する。 |

私たちの生活と食料生産 (5年)

○本単元で育む主な資質・能力
調べた社会的現象から、気が付いたこと、分かったこと、考えたことなどにして意見を組み立てる。

○本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
処理の仕組みや再利用、人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子をとらえ、それらの事業や地域、自分たちが果たす役割を考える。(d)

5 本時の実際 本時 (10/13)

(1) ねらい

ペットボトルのリサイクルの過程を考える活動を通して、ごみ処理にあたって人々が協力して取り組んでいることを考えている。

(2) 展開

○：「仲間との対話」を通して新たな価値を創造するための手立て

| 時間 | 学習活動 | 教師の支援 評価 |
|---|---|--|
| 3分 | ① 前時の学習をふり返る。 | <ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習したことを想起できるように、既習事項を掲示しておく。 |
| ペットボトルはどのようにリサイクルされているのだろうか。 それぞれの取組の関係について考えよう。 | | |
| 7分 | ② 誰が行っているかを観点にリサイクルに関係する人たちの取組を整理する。 【仲間との対話】 (予想される子どもの反応) <ul style="list-style-type: none"> 分別して回収しているのは市の取組だ。秋田市の「ごみの分け方と出し方」に書いている。 回収されたペットボトルは市のリサイクルプラザで処理される。ここは見学したね。 | <ul style="list-style-type: none"> 話合いの際に根拠を示せるように、前時までの学習で用いた資料を用意しておく。 |
| 25分 | ③ ペットボトルリサイクルを、人々がどんな目的で取り組んでいるか、どんなつながりがあるかを考え、話し合う。 【仲間との対話】 (予想される子どもの反応) <ul style="list-style-type: none"> まずは家でもお店でも分別している。そうすると回収しやすいと収集作業員の人が言っていたよ。 リサイクルプラザの人は環境を守るためと言っていた。それはお店の人も同じことを言っていたよ。 ペットボトルを原料化している工場では、ホームページに環境のためと書いている。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の終わりに自分の考えの変化や深まりを自覚できるように、リサイクルに携わる人々のそれぞれの思いや目的についてあらかじめ自分の考えを書いておく。 ○ 様々な関係性に気付くことができるように、人々がどんな目的でリサイクルに携わっているのかを考えるようにする。 それぞれの立場における目的を考えられるように、前時までの学習を想起させる。 ごみの減量化に目を向けることができるように、共通する目的を考えるようにする。 理由を明確にしながらか発表できるように、根拠となる資料等を活用しながら述べることを確かめる。 |
| 10分 | ④ 本時の学習をふり返り、本時の学習をまとめる。 【自分との対話】 | ペットボトルのリサイクルを例に人々が協力してごみ処理に取り組んでいることを、ごみの減量や生活環境の維持と向上などという目的について触れながら説明している。 〈I-5,34〉(シート, 発言) |

(3) 「仲間との対話」を通して新たな価値を創造する子どもの姿

